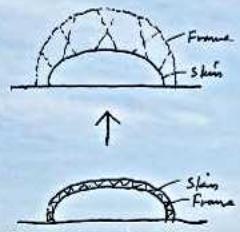


浮島アリーナ

私たちは、瀬戸内の島々の蜃気楼のような建築を提案します



「浮島」として知られる瀬戸内の蜃気楼のように、島のようなドームから、雲のような軽い架構が遊離し浮かびます。瀬戸内海の風景や文化を凝縮したシンボリックな風景が生まれると同時に、大架構と人々の営みをつなぐ、立体的な縁側（中間領域）が生まれます。それは瀬戸内の世界を反映した、溢む建築です。3つのドームが柔らかくつながり、霧にかすむ瀬戸内の島々のような建築ができます。

体育館の大スパン架構を、力学的効率の良いライズの高いドーム（＝〈籠〉）でつくります。少ない鉄骨量で透明度の高い霧のような巨大なシルエットをつくりながら、〈籠〉からは膜素材のドーム（＝〈膜〉）を吊り、最小の表面積と気積で内部空間をつくります。3つのドームが柔らかくつながり、霧にかすむ瀬戸内の島々のような建築ができます。



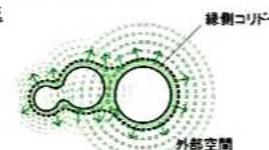
なかば閉じなれば開かれた瀬戸内海の群島は、ただ美しいだけでなく様々な現代的示唆を持ちます。はっきりとした境界をつくるのではなく、それを滲ませ、多様な「あいだ」をつくりだすこと。それは、システムティックな大陸的思考に対置しうる、生命的なアーキペラゴ的思考であり、21世紀の新しい普遍性を示唆します。浮島のような瀬戸内世界のゲートは、縁側や軒下のような空間領域と親しんできた日本の伝統に接続しながら、東アジア的世界における建築のアーチテクチャーを新／開いていく。未来に投げかけます。

瀬戸内の島々の靈氣様のような群島的文化のシンボルとしての外観

1 海と群島のシンボルとしての体育館をつくります デザイン性



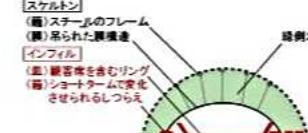
【シルエットとたたずまい】
丸い島々のような外観
海からの見えを強く意識した、霧にかかる
島々のような丸いシルエットをつくり
ます。それは高松駅前広場からも印象
的に垣間見え、人々を海辺へと誘いま
す。



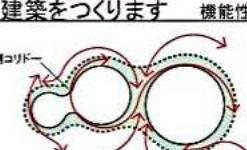
【内部空間の見せ方】

空の下のようなアリーナ
フレームから解放された《膜》の下の空間は、明るい空の下のような場所です。
拡散する自然光はスポーツに適した環境をつくりだすだけでなく、省エネルギーも寄与します。MICEなどのために水平スクリーンで暗転することもできます。

2 長い将来にわたって使われ続ける建築をつくります 機能性



【柔軟な対応】
インフィルとしての〈皿〉と〈箱〉
〈籠〉と〈壁〉のドーム構造は、シートや諸室
でなる、〈皿〉や〈箱〉とは構造的に切り離
スケルトン／インフィルの関係を持ちます
7mグリッドの鉄骨ラーメンでつられる、〈皿〉
その内外で展開する、〈箱〉は時代やキーワード
に合わせて、フレキシブルに変化できます



【長く使い続けられる施設】
融通無比な縁側コリドー
縁側コリドーは、使い方のモードに合わせて多様に変化する融通無比な場所です。周辺の街と建物内部との、その時々のつながりをフレキシブルに定義できます。



多くの人々が集まる場所】
民を巻き込んでつくり使われる
Ⅲ) や「箱」は、現実の使い方や活
法を実際の使い手の意見をヒアリング
ながら、一緒につくります。竣工前か
使い手となる人々を巻き込み、長い時
間でわざってこの場所を支える活動をす
ます。



【体育館の役割】
愛される建築
高松の玄関口にふさわしい、シンボリックで人々に親しまれる建築をつくります。また、日常／非常日の多様なシーンの背景となる、記憶に残る場所を香川の人々とともにつくることによって長く使い続けなくなる、愛される建築を目指します。



3 様々なシーンが展開する多様な余白をつくります 空間性

[ハレの日に多くの人場来る]
大群衆をシーンにする縁側コリドー

縁側コリドーは、大規模イベントにおいて、大量の群衆を受け止め、シンボリックなシーンへと転換する舞台的な場所になります。



[地域の人々が憩える魅力がある場所]

日常を彩る「あいだ」の場所

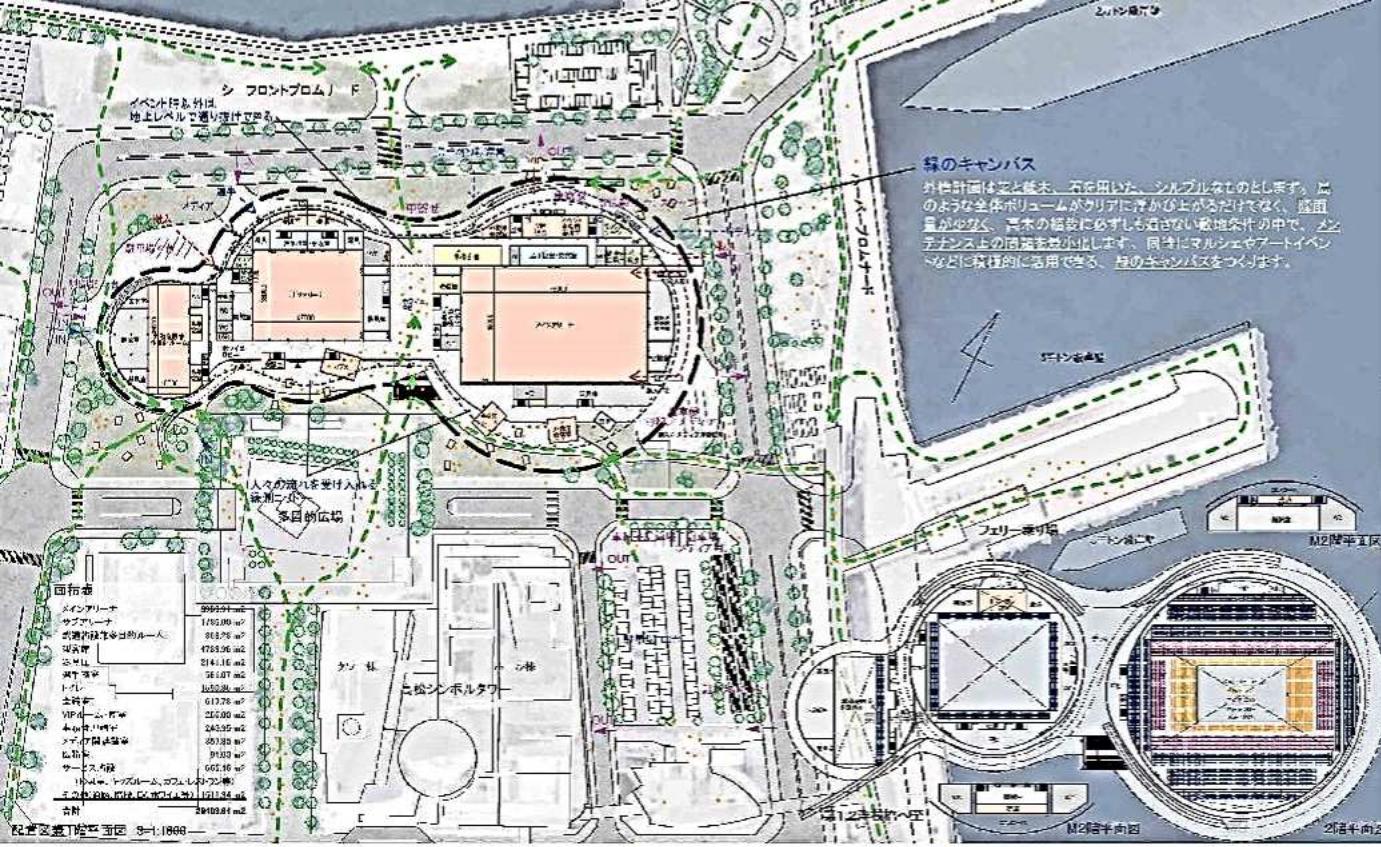
日常的には、施設運営と連動した市民活動を含む様々なアクティビティが展開する余白となり、地域の活性化に寄与します。



[周辺施設との関係]

回遊性を持った全体計画
シビックコア全体を意識した動線計画とします。既存の二階レベルコリドーを適宜延長してスムーズで魅力的なシーケンスが生まれるようにします。縁側コリドーはこの流れの一部となり、展望スペースを含みながら展開します。





多様な使われ方を享受する体育館

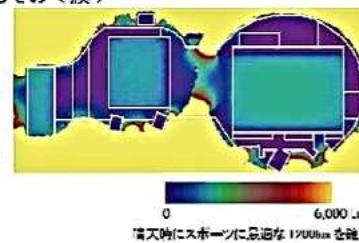
イベント時以外は、広場からシーフォンへプロムナードへと抜け
る地面上レベルの一般路線を説明するなど、エレベーターに面接を使
い分けを行います。
セキュリティーラインを手放さずすることで、イベントにあわせ
た絆ゾーンを混じらない管理、運営実績を保証します。災
害時にはメインアリーナを中心に一次拠点物資搬入点支設施設と
して、救援物資の輸出入及び保管をしやすい面倒さです。

4-3 箍と膜、皿の重なりがつくる多様な微気候



【社説設備の機能性や合理性】 瀬戸内の陽を透くフィルターとしてのく膜

アーナや様側コリードを覆う膜は透過性を持った光のフィルターであります。強く降り注ぐ瀬戸内の日差しも、散拡率の高い膜に柔らかく透過被散され、アーナで指向性の少ない光を射出します。晴天時にはアーナ全般で約1200luxと、屋内スポーツに最適な照度を実現し、高品質な競技環境を実現します。



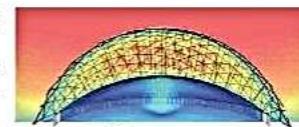
「能」と「廻」のあいだに生まれる微気候
編むように組まれた「籠」自身はあらゆる方向からの屋外風を柔らかく拭散させ、その内側の風速を20～30%低減させることのできる「風のフィルター」です。籠が下に落とす柔らかな影と合わせ、この「能」と「廻」のあいだに浮かぶ展望コリドーは、あたかも立体的な絵巻のような「微気候」に包まれます。

瀬戸内の風を促す縁側コリドー

それるよう^に並んだく皿の圓をつなぐ傾側コリドーは、海から陸をむすぶ橋やかで涼冷な風を保し、柔らかく導き入れます。この傾側コリドーでは全般に約10m/sの安定期通風が居心地よい屋外環境を演出し、中間期、風はさらにここからアリーナへと分岐され0.1~0.4m/sでゆっくりと循環し、アリーナ全体を効率的に冷却します。

騒音に配慮した断面・配置計画

大アーナを北東に配し、中アーナ、武道場を連ねることによって、東側にある住宅地に騒音が伝播しにくくなるようになります。また、遮音、吸音性能が不足しがちな誤構造の断面計画において、十分な空気層を確保した二室の段と、グラスウールを併用することによって適切な遮音、吸音性能を確保します。



被験者発生の問題



第1回



5 ライフサイクルコストの縮減と長寿命化に配慮したものとします 持続性

【LCCの縮減と長寿命化】
光熱水費（ランニングコスト）を約35%低減
うるるよう連續した膜屋根では降雨を効率的に集水し、そして並用水として再利用します。さまざまな香川の自然力（光、風、水）を上手に操り、加えてアリーナの置換空調、観客席の座席空調、LED照明といった高効率設備システムを組み合わせ、施設の光熱水費を35%低減することができます。

メンテナンスの簡素化

「膜」には光触媒塗料を用いることで、自浄化作用をもたらすことができます。『謡』に用いる樹脂は、潮風の影響を考慮した車防仕様のふっこう樹脂塗装とします。外構の植栽は西の少ない高松の気候に配慮したシンプルでメンテナンスが簡単なものとします。

（皿）や（箱）のメンテナンスや改築は、地元工務店が行え、長い時間の中で少しづつ姿を変えながら建物全体を生きたものとします。

